

第1回 中札内村景観まちづくり委員会 会議録

日 時 令和5年12月18日(月) 18:30～20:50
場 所 中札内村役場会議室2
出席委員 金澤和彦、片山祐二、下埜智加、歌野裕美、渡部弘正、林理央、柴田裕貴也
欠席委員 なし
村 長 森田匡彦
事 務 局 総務課課長 中道真也、総務課長補佐 下浦強、
総務課主査 竹村幸二、総務課主事 吉田彩乃
オブザーバー パシフィックコンサルタンツ(PCKK) 宮崎栄一郎、遠藤太一、原彩菜

議 事

- 1 開 会 18:30
— 中道課長より開会のあいさつ —
- 2 委嘱状交付
— 森田村長より各委員へ委嘱状の交付 —
- 3 村長あいさつ
— 森田村長よりあいさつ —
— 各委員、オブザーバー(PCKK)よりあいさつ・自己紹介 —
- 4 景観まちづくり委員会の概要について
— 竹村主査より景観まちづくり委員会の概要について説明 —
- 5 景観アドバイザーについて
— 竹村主査より景観アドバイザーについて説明 —
- 6 景観形成等に関する取組の経過について
— 竹村主査より景観形成等に関する取組の経過について説明 —
- 7 協議事項
 - ① 会長・副会長の互選について
— 各委員の承認をもって会長に金澤委員、副会長に歌野委員が決定 —
 - ② 村民意見等調査結果(アンケート)について
(会 長) それでは、協議事項の②になります。先日実施した、村民意見調査・アンケートの結果について、事務局から説明をお願いします。

(竹村主査) 特に、新しく委員になった方に調査概要をご説明します。村の景観計画を考える上で、まず中札内にどんな優れた景観があるのか、住民の皆さんが村の景観をどのように感じておられるかといった現状を把握するために、村民 500 名を無作為抽出し、アンケート調査を実施しました。3 割くらいの方に回答していただいています。その中身について、PCKK さんに分析結果をご報告いただき、今後どう進めていくか議論できたらと思います。それでは、宮崎さんよろしくお願いします。

— PCKK 宮崎より景観計画についての説明 —

(PCKK 宮崎) 委員の皆様、ご不明な点、ご質問はございますか。

(委員) 今後ビジョンを描いていく上で、アンケート結果を中心としてビジョンを形成していくのか、それとも誰かビジョンを引っ張っていく人がいて、それに対して住民のアンケートを聞きながらビジョンを形成していくのか。どこが原動力、ビジョンを引っ張っていく中心になるのでしょうか。

(PCKK 宮崎) アンケートは、現状認識を皆さんと共有する上での素材という形で取り扱いさせていただきます。結果を踏まえてビジョンを作っていくのは、この委員会と村ということになっておりますので、そのような認識でいただけると助かります。なので、我々からも色々資料を出しますが、基本的にはご意見をいちいち伺いたないので、今みたいな感じで意見を言っていただけると助かります。

— PCKK 宮崎より資料 1-1 アンケート結果報告書の P1～10 についての説明 —

(PCKK 宮崎) ここまで何か調査結果等について質問等ありますでしょうか。
なんで中札内らしい景観の 1 位がピョウタンの滝なのでしょう。

(委員) 札内川園地とか、札内川ダムまで広げて考えると十分あり得ると思います。

(PCKK 宮崎) いわゆる札内川の源流など、そんな地域的なイメージでしょうか。

(委員) ピョウタンの滝は、農協の発電所として作られましたが、たった一年で水害によって壊れてしまいました。また、下流域には、発電所の跡が残っているなど、そういう歴史的な部分には私は興味があります。ただ、ある一部の人から、ピョウタンの滝を見てびっくりしたという話も聞いたことがあります。落差もあまりないです。そういう意味では、素材としては写真を撮りますが、部分として撮るのではなくて、全体で撮ります。最近キャンプ場の方も整理され、施設が充実してきているので、その一帯として中札内らしいという感覚なのでしょう。ただ、地元の人にはそれほどキャンプに行っているかは分かりません。一回もピョウタンの滝に行ったことがない人もいます。

(PCKK 宮崎) この辺の分からない部分をワークショップで明らかにしていきたいと思っています。

(委 員) 個人的な意見ですが、アンケートを答えさせていただいて、私が思う中札内の景観を選べないなと思いました。多分住んでいる人たちが大事にしたいのは、代表的な、名前が付けられるようなところではなくて、自分の家の庭だったり、ちょっとした裏道だったりなどの自然だと思います。農地の「ここから見える農村の景色」が好きだとか。例えば、札内川の川霧と言われたところで回答することは難しいです。川全体のことではなく、少量が流れている部分の川霧など、個々人の思い出がある場所がきっとあるなと思いました。このように観光パンフレットに載ってくるような名前を並べられてしまうと、私の場合は残したいものとずれてしまうなと思いました。だから、分かり易いということで、回答がピョウタンの滝に誘導されてしまった部分もあるかもしれないです。

(会 長) また、回答者は、「中札内らしい」ということを、「村ならでは」「他にはない独特なもの」という意味で捉えられているのかもしれないです。

(PCKK 宮崎) 景観計画では、先ほどのビジョン作りでもですが、「こんなのが中札内の景観だね」というのを、言葉にしていきたいです。それは、単に「これです」と明確に示せるものではないと思っていますので、ご指摘いただいたようなことを上手くまとめていきたいなと思っています。他にも何かありますか。

(委 員) ピョウタンの滝は3回ほど行ったことがあります。子どもの頃に1度、大人になってから2回ほど。特にわくわくするようなものはなく、やまべ放流祭の時は人口の倍ぐらいの人が来ますが、何を見て何を楽しんでくるのか分かりません。他に名前が付いている有名なところがないので、このような回答になったと思います。個人的には中札内で残したいところは、日高山脈と畑があって、防風林もあって。農村部に関しては、それが景観なのだろうなと思っていました。ピョウタンの滝はどうなのでしょう。距離もあります。冬になると誰も行きません。日高山脈と畑は、冬になっても国道や道路を通っていると、「中札内だな」とか「北海道だな」なんてことを感じます。それがとても大事なんじゃないかなと思います。

(PCKK 宮崎) そのような結果になると思っていましたが、聞き方が悪かったのかもしれないです。その点については、これからワークショップなどを通じて調べていきたいと思っています。

— PCKK 宮崎より資料 1-1 アンケート結果報告書の P11～15 についての説明 —

(PCKK 宮崎) 村の景観の課題として最も回答が多かったものが「ゴミのポイ捨て・不法投棄」でした。私は、村にゴミがそんなにたくさん散乱しているイメージがないです。また、二番目に回答が多かった空き家・空き地も正直、ピンとこなかったのですが、どうでしょうか。

(委員) 私の地区では、夏に農村地区のゴミ拾いをしていますが、実際、草むらの中に結構色々なゴミが落ちています。ビニール袋に縛って、食べ物のゴミなどが捨てられていることも多いので、見えないところになります、やはりゴミはありますね。

(PCKK 宮崎) やはり雪解け後の刈払いなどで、隠れていたゴミが多く見つかるのでしょうか。

(委員) ある程度見つかります。畑作業をしている時も、ゴミのポイ捨て、空き缶などが畑の端などに落ちていたりするので、観光客かどうか分からないですけど、やはり一定数はそういったゴミは出ます。

(PCKK 原) 雑草が繁茂していると、そこにさらにゴミが捨てられるといった意見も、アンケートの中にあっただけですが、やはりそういった傾向は強いのですか。

(会長) 手が行き届いていないところに捨てられていることが多いです。手入れがしてあるところは、自制心が働くのではないのでしょうか。

(PCKK 宮崎) 割れ窓理論といって、もうボロボロになったところだとゴミを置かれますが、ゴミ一つないようなところは、やはり捨てにくいらしいです。大変ですが、そういうところを目指した動きをしている地域もございます。ただこの後、先ほどのスケジュールの中でも話しましたが、具体的な課題が明らかになったら、それをどうやって解決していこうかということは、次年度以降に検討させていただきます。色々な事例とか、思いついたことについて、皆さんからもご意見いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。また、グラフの下の子のところを見てください。いわゆる他の景観計画でよく出てくるもので、建物などの規制や誘導ですが、そこまで重視されていないといった結果になっています。

(会長) 建物の絶対数が多くないからではないのでしょうか。建物があっても、ポツンポツンとしかない。だから、まだ良好な状態ということは言えていると思いますが、絶対数が増えてきたら、やはりこういうルールが必要になるのではないのでしょうか。

(PCKK 宮崎) 農村景観的な建物もあって、例えば赤い屋根が良い、青い屋根が良いといった意見がよく出てきて、どちらでも良いかなとは思いますが、そういったルールを決めた方が良いという人も、今回のアンケートでもいらっしゃいました。他の景観計画の事例では、建物のルールについて、市街地、商店街とか目抜き通りでは結構決まっていることもあります。下川もそうです。そういうルールがあった方が、街並みとしては良いのではという方もいらっしゃるの、この辺もどうしていくか、今後議論したいと考えています。ただ現状は、そういうものに対するニーズはそんなに高くはないということは、ご理解いただければと思います。

(委員) 今日、「日本で最も美しい村」連合オンライン大学（フランス）のZOOMを見てい

て思ったのですが、目指すものがはっきりと描けていれば、課題が見えてくるのではないのでしょうか。いつも課題の中にいると、それに慣れてしまって課題とは思わなくなります。なので、自分たちはこういったまちづくりをしたいと決め、実際に理想に近い例を見たら、「私たちはこの部分で課題がある」という認識が生まれると思います。村の人たちが、自分たちはこういうものにしたいというものを、具体的にイメージができると、課題が捉えられるのではないのでしょうか。

(会 長) かなり遠回りしてきているというのはあります。委員会が 10 年になりましたけど、最初は、我々で決まりを作って、村民の皆さんに提案してみようということで、手始めに中札内ルールを作りましたが、理解や関心がまだ低いような反応でした。なので、急がずに、今回のアンケートも時間をかけながら確実に進めていこうと考えています。本当は、委員会でこの村の将来ビジョンを示せば早いかもしれませんが、確実に成果を出して、時間をかけていくことで、今そのプロセスの途中ということでご理解ください。

(PCKK 宮崎) 委員会でも視察とか、皆さんでどこか見に行かれているのでしょうか。

(会 長) 実施しています。また市街地においては、提言もしています。提言では、「ここはこうすべきだ」ということをはっきり書いています。できればそういう提言をバシッと出せるようになりたいです。

(PCKK 宮崎) これはあくまでも例えですが、他のところでも、街区や花の街とか、そういうことに取り組んでいく時に、実際に自分たちの理想に近いようなところを見に行くと、同じビジョンを把握できて、一気にイメージが共有できたりするので、予算の関係で全員が行くことは無理かもしれないですけども、長い間委員である皆さんの「こんなところが良いと思う」ということを、次回とかイメージを共有しながらやっていけるとありがたいです。どうしても言葉や図だけでは難しく、実感があると良いです。

(委 員) 会長に質問です。じっくり進めていくということは、村民の合意形成をしながら進めていきたいということで、一方的に誰かのビジョン、答えを先に出して、村の皆についてきてもらうというわけではないということですか。

(会 長) そうです。

— PCKK 宮崎より資料 1-1 アンケート結果報告書の P16～24 についての説明 —

(PCKK 宮崎) 保全したい景観として回答が多かった防風林は、農家の方たちはあまり保全したいと思っていないような結果になっていますが、どうでしょうか。

(委 員) この資料を見て突っ込まれるだろうとは思っていました。景観資源として大事だ

ということは分かります。私の意見ですけれども、少なくとも自分の土地の中にある防風林に関しては、景観資源として大事にする前に、やはり農業の経営の方を効率よくするという視点で見えています。防風林がある事のメリットとデメリットを考えて、枝が張り出している時にトラクター作業などの邪魔になります。特に今の時代、GPS などがあり、防風林がそばにあると、電波の精度も悪くなることもあります。風害を防ぐことより、作業効率化の面を優先することが多くなりましたので、無いほうが良いという面はあります。

(PCKK 宮崎) ありがとうございます。保全したい景観として回答が多かった防風林について、昔と今の航空写真を比べてみました。これが 1961 年の航空写真で、この影が出ているところが防風林で、こちらの 1974 年頃の写真ではまだかなり残っています。しかし 2018 年になると、確かに減っているような印象を受けます。見ていただくと分かりますが、農地自体も大規模化していますよ。他にも、例えば北海道の農村景観、特に酪農地域からはサイロがラッピングサイレージになっていて、農村景観は時代とともに変わっていくものなのかもしれないです。今言ったような技術的な革新の中で変わっていくものもあると思いますが、では防風林もなくなって良いのかどうかは難しいことだと思っています。アンケートで、村の大多数の人は守っていききたいとは思いますが、実際に農業を営まれている方々の理解とは反する部分があるということですが、どうしたらいいのでしょうか。

(委員) 先ほどの補足にはなりますが、防風林にも老朽化するパターンもあります。樹が密集すると痩せたりもしますので、綺麗な防風林の維持管理が大事ではあります。また、数年前の 12 月にすごい強風が吹いたことがあって、その時に老朽化した木が折れて、周りの電柱や電線に引っかかって被害が出たことがあります。景観を維持するためにも労力がかかるのではないかなと思います。

(中道課長) 12 月に議会があつて、一般質問で防風林の話が出ていました。美しい村連合に加盟したので、ふるさと納税を活用して財源を当てられないかといった質問でした。両方の言うことも理解でき、なかなか難しい問題だと思います。

(会長) そういった制度ができれば、理解いただける農家さんもいるかもしれません。

(PCKK 宮崎) 建物等であつたら、景観資源として位置づけて、維持させるための補修の費用を、行政が補填するという仕組みもあつたりするので、その辺については難しい問題ですけれども、今後何らかの方向性を、この委員会の皆様方と一緒に考えていきたいと思っています。アンケートの結果については、私からの報告は以上になります。

③ 村民意見等調査（村民ワークショップ会議）の方針について

— PCKK 宮崎より資料 2 ワークショップ企画案についての説明 —

(PCKK 宮崎) 皆さんには、「そもそも無作為な方が良い」、「そういう視点だったら、こんな人も

いた方が良い」といった意見をお伺いできればと思います。

(委員) 人が集まるとグループ思考が働いて、大多数の意見に従う傾向が出るとは思います、例えば農業従事者ではなかった場合でも、農業を存続させながら景観を維持するために、それを肯定する立場で、グループに参加してくださいと指示すると、自分の立場だけの意見を述べる場所が無くて、ほかの人たちの立場を理解することができます。ワークショップの中で、それぞれが色々な役目を担うことで、最終的に色々な立場を見て、その上で自分の意見も構成されれば、参加者にとっても意義があることで、第三の答えを生み出すためにもすごく良いプロセスが可能だと思います。

(PCKK 宮崎) ありがとうございます。例えば、今この3人とそちらの4人で防風林の賛成派と反対派に分かれ、それぞれの立場で意見を述べてくださいといったイメージでしょうか。

(委員) ディベートまではいかななくても良いと思います。

(PCKK 宮崎) ワークショップでは、基本的に出された意見は否定しないというルールの中で進めていくことになると思うので、ファシリテーター・司会進行役の者がコントロールしながらやらないといけないということと、これだけのことを、色々な人を、立場をイメージしながら集めると、お互い相容れないことが必ず出てくるとは思います。それを良しとするか。そんな中でも歩み寄れるところがどこまでなのかということを見極めるのも大事だとは思っています。なので、参加者の募集の進め方も重要なことだと思いますので、今いただいたような意見を参考にしながら、我々と村とでさらに案を積んでいきたいと思っています。

(委員) これは参加したい人だけが集まるということでしょうか。

(PCKK 宮崎) 参加したい方だけで集められるのかということもあって、我々でよくやるのは、農業関係の方の意見も聞きたいということで、農業委員会などに声をかけて、誰か一人出していただけますとか、そんなようなやり方で進めることもあります。

(会長) 全体のタイムスケジュールを見せていただけますか。ワークショップの結果、内容がどのように反映されていくのでしょうか。

(PCKK 宮崎) こちらになります。ちょっと言葉が、分かりづらくて申し訳ないですが。

(会長) ワークショップの結果は、あくまでも材料ということですね。分かりました。

(委員) お母さん方は、関心を持ってらっしゃいますか。

(委員) 私より若いお母さんたちも、関心があると思います。また、子どもたちの方が、関

心があるかもしれないです。学校とかで実施されている村に関する教育について、色々な話を聞いていて、例えば何を将来残していきたいかといったようなことなどがあります。この前、子どもたちが学校で、村のどこが好きですかと聞かれた時に「星空」と言っていたので、私もそれは残したいなって思いました。

(会長) 2 ページ目の第 1 回ワークショップの内容のところで、将来イメージとありますが、描くのは難しいかもしれません。僕だって未来のことって簡単には描けないような気がします。「こうあってほしい」といった、そんな言い方になるのでしょうか。個々の要素とか防風林がこうあってほしいとなどは言えないから、抽象的なイメージにきつとなると思います。「毎日眺めて心地よく思える景色」など。何をどうするかは出てこないのではないのでしょうか。

(委員) 村外での居住経験がある私からすると、村にはすごく価値のあるものがあると思います。人は反対のものを見たがゆえに、価値が分かることもあると思いますので、ここに長く住んでいらっしゃる方も、村の外のものを知ること、自分たちはこういうものを持っている。だから、それを維持していくとか、またもっと良くしていきたいなといった話になると思います。なので、多分おっしゃったように、この中札内に長く住んでいらっしゃる方と、そうじゃないものを経験されてきた方の意見交換をしたら、将来像は多分見えてくるのかなとは思いますが。うちの子どもも、札幌の生活を見てきたけれど、引っ越してすぐここに馴染んでしまって、ここの価値っていうのが分かりづらくなってきています。

(PCKK 宮崎) なんとなくアンケートの結果から見ると、その美しい景観で観光客を呼んで、人がたくさん来るようにということを考えている人はあんまりいないのではないかなと思います。逆に、日々の生活で自分にこうフィットするような、そういうことを非常に大事にされている方が多いのかなと思っていて、ワイワイと活性化する感じではないのかと。

(委員) 中札内は、景観が良くて移り住んでくるというより、環境が良いから移ってくる人も多い気がします。景観は特に意識せず、住みやすさや教育が行き届いているだとか、自然があるとか、除雪が帯広に比べたらすごく良いだとか。そういうことを総合的に判断して移り住んで来る方が多いのではないのでしょうか。

(委員) 移られるにあたって、そのような景観以外のものって、住んでみないと分からないですね。皆さん、どうやって判断材料を事前に把握しているのでしょうか。

(委員) 私は、見た目や空気とかも含めて景観が良くて移住しました。

(委員) また、農村部だけが景観なのか、市街地を含めた全体が景観なのかで違うのではないのでしょうか。街は生活する場だから、崩れかけている家があれば、それは何とかし

なければいけないでしょうが、あまり手をかけなくて良いことになれば、外側をどうするかって考えになるわけです。自分は、街の中を含めて、「ここを歩いていると気持ち良いよね」とか、「車を出していると良いよね」というようなところがあっても良いのかなと個人的には思います。

(PCKK 宮崎) そんな意見をワークショップでも聞きたいです。

(委員) 自然系は、いっぱい意見として出てくるけど、それ以外のことはそんなに出てこないのではないのでしょうか。

(PCKK 宮崎) アンケートの自由意見の中でも、農家さんも街中に住んでいる方もいて、これからの社会を考えたら、歩いて暮らせるようなコンパクトな街を作っていくことも良いと考える方もいらっしゃると思います。

(委員) ワークショップのメンバーの中に、観光協会とか商工会の方は入れないのでしょうか。観光協会の人の「村のこういうところを残してもらいたい」といった思いや、商工会の「こういうルートで回ってくると、村にもいくらかお金を落としてくれる」といった意見もあると思います。利益は関係ないと言うのは簡単ですが、そういうわけにもいかないのでは。景観を良くしたことで、多分それなりに人が来ることを考えたら何らかのものを落としていく。ゴミを含めてなんですけど、そんな気がします。そうすると、観光協会や商工会の人が、委員としてはいてもワークショップで一般の方として入ってこなくて良いのでしょうか。観光協会は何か、これをぜひという思いはありますか。

(PCKK 宮崎) もう少し産業系も考えたほうが良いのではということですね。

(委員) 村民自身が満足できるまちづくりをするのか、経済的にも満足したいのかで変わりますね。先ほどおっしゃったみたいに誰を呼ぶのが良いのかも変わると思います。

(PCKK 宮崎) 実は、普通のまちづくりでは、必ず商工会、観光協会などもお呼びしますが、今回のアンケート結果を見て、自分たちのまちづくり・景観づくりを大切にされた方が良いのではと考えていました。ただおっしゃるように、もう少しフラットで、これを機に色々な商売も考えたいという人もいますので、商工会、観光協会の方のご意見もお伺いすることは、大事なこともかもしれないですね。

(委員) 今日の「日本で最も美しい村」連合オンライン大学（フランス）では、政策に取り組むことによって、今まで村に存在しなかったビジネスが何個も出てきたと言っていました。そもそも、ビジネスチャンスを見込めなかった住む人たちが施策に乗っかって。さらには自分たちの視野というか、ビジョンが開けたこともあると思います。

(PCKK 宮崎) 会長。この意見についてどうでしょうか。

(会 長) かなり難しいワークショップになるなと思っています。それぞれの方が言いたいことを言って、それで済むという話ではないので。

(PCKK 宮崎) 参加のハードルを低くして、公募で来ていただいた人たちだけでやってもらうとアイデアフラッシュみたいになるかもしれないですけども、そういう意見の聞き方もあります。ただ中札内村だと、どうしても生業や生活と切っても切れない部分が多分に出てくるので、今の段階から二か年で、話を聞きながらまとめた方が良いと思って、このような参加者を考えていました。その中で、他の商売の方々も入れた方が良いというのは、確かにおっしゃる通りかもしれないです。

(会 長) 何のためのワークショップかを最初に言っておかないと、皆さんも言いたいことを言うだけになってしまうので、結局、相互理解は得られないし、共通認識がまとめられないことになると思います。あくまで最初に、例えば、住民の皆さんの共通認識を作るためのワークショップなので、他の立場の方の理解があった上で、守ってほしいといったことを共有するなど。最低限どの程度のことを決める必要があるかなど。かえって分裂するような種を蒔かないよう、同じ方向に向くためのワークショップをしたいです。行政が開く意見聴聞会みたいになると、陳情みたいなことになってしまいます。そうではないと、最初に話をすると良いですね。

(委 員) (資料 1-1、P7～10 を指して) ワークショップの人選とは話題がずれますが、これを見てみると景観が何かが分かりにくく、例えば道の駅や文化創造センターが入ってくるのか疑問に思います。村民もすごく好きで使っている施設ですが、それが景観としてどうなのかという話になると、きっと違う反応が出てくると思います。それぞれの立場の人によって大事な景観は違ってくると思いますが、このアジェンダに上がっているものが広すぎて、議論に深みが出ないというか、そういった懸念があります。私がこの景観委員会に携わっていても、これをパッと見て、ワークショップで意見するのは難しいかなと思います。私が参加するなら、まず景観というものが何を指しているか理解したいです。

(会 長) 景観の定義、認識を皆さん共通して持ってもらわないとバラバラになりますね。説明できるのかということがありますが。

(PCKK 宮崎) 説明するか、もしくは、景観というのを皆さんで議論していただくのが良いかもしれませんね。結局景観はパブリックなものと言えます。自分一人のものではなくて、誰もが享受できるものである。そういうものだとか確かめてから、その時に中札内村の景観というのはどうかということを、最初のワークショップで導いてからやってくのも確かに良いかなと。

(会長) 「あなたにとって景観とはなんですか」から始めるのもいいかもしれません。一方的に「景観とはこういうことですよ」と押し付ける方法もありますが。結局景観とは何だってことを考えたら、時間が掛かるテーマです。でも人数によっては聞いてみて、そこから入っても良いかもしれないです。

(委員) このアンケートの結果を見た時に、道の駅を、どのように景観として捉えるのか分からなかったです。だから言われたように、自分の中では景観だと思っていたものがあると、一般の方が集まってワークショップをするときに、理解がなかなかできないような気がします。

(会長) 賑わいがあるとか、人が交流している姿が、良い景観、心和む景観と思うことはあるかもしれないです。例えば、子供たちが遊んでいる公園を見ると、「ああ良い景色だな」といった感じ方です。

(委員) 鉄道公園は綺麗になっていて、景観に入るとは思ったのですが、やっぱり道の駅は、どうしてこれが景観に入るのだろうと思いました。

(金澤会長) 商業者だったら人がたくさん集まって賑わっていて良いなみたいに、生業的にそう思うかもしれないです。

(委員) 六花の森は、公的なものじゃなくて私的なものですが、歩いていると心が和んだりするから、そこは景観に入るだろうなと思いました。

(PCKK 宮崎) そういうところもワークショップで聞きたいと思います。

(委員) 皆さんが景観をどういう風に思っているか。そういうことを理解できないと、どういふのを作っていいか全然答えが見えてこないと思います。

(PCKK 宮崎) 景観計画自体、「人がいる景色」という形で括っているところもあるので、何でもありといえ、何でもありです。人が集まって賑わっていることをあんまり嫌な気がする人は少ないのではないかと思います。

(会長) 村の中でも、お祭りやイベントもそうです。

(PCKK 宮崎) 祭りを大事にしているところもありますが、中札内村でもそういうところを対象にするのかは、今後検討する必要がありますが、参加者には、景観とは何かというところを、まず語ってもらうことは良いかもしれません。

(PCKK 原) 私がこのアンケートを作って回答を見た時に、道の駅や文化創造センターの回答が多くて、私も正直なぜだろうと思いました。ただ、現地に行った時に、文化創造センタ

ーは鉄道公園から歩く道が続いていて、樹林帯があって、その先に緑の並木が続いていて、それで綺麗な芝生が広がっていて。きっと村の人たちにとって、建物だけでなく空間全体が美しいというか、身近な緑の空間といったものなのではないかと思いました。道の駅も、好きな景観として出ていた意見では、直売所の隣にある小さい川と、その奥に人が過ごしているような空間が景観として切り取られていて。これは確かに道の駅というよりは、その周辺の綺麗な芝生とか、そういうものが村の人たちにとって綺麗な景観だということで、しっくりきた部分がありました。もしかしたら他の建物も、そのものを指すものではないと思うので、ワークショップでもそういった声が聞けると良いと思っていました。

(会長) 前提が大事ですね。10年、景観について委員会をやってきましたけど、大きなテーマで、すべての人から理解されるかはわかりません。関心がない人もいるわけですから。関心があるとしても、定義が人によってまちまちでしょうから。内容と、どういうものを導いて、どういうものをこのフローの中に使っていくかです。

8 その他

(委員) 美しい村連合の総合評価がBですが、私たち独自の道を歩むとすると、必ずしもAを目指すわけではないってことですか。どのような査定基準が分かりませんが。

(会長) あくまでも連合の基準なので、連合に加盟することは、景観まちづくりを中札内で実施していくため手段の一つなので、連合のことは気にしなくて良いと思います。ただ、「美しい村」というキーワードを村民の皆さんにより多く耳にしてほしいために美しい村連合を利用しているというイメージです。美しい村連合より上にいきたいと思っていますが。ただ、連合のイベントで色々な地域を見ることができて、人と交流できることがすごく良いですね。参考になるところもたくさんあり、勉強になりました。

(PCKK 宮崎) 竹村さん。今後は副委員長からもご指摘があったワークショップのテーマについて、再度調整させていただいて、今日のご意見も含めて、皆さんにメール等をお送りいただいて、ご意見をいただくという形でいかがでしょうか。

(竹村主査) 分かりました。

(PCKK 宮崎) 法定計画と法定ではない計画との違いは、法定計画だと目指すための手段について、法的拘束力はあるのかということをつけ加えるだけなので、法定かどうかは別として、計画を作る上であり方、目指すべき方向は非常に大事なところになります。皆さんも参加されたような、中札内村まちづくり計画は、書くことは大体決まっていますが、景観計画ではかなり自由です。なので、そういったことや今日いただいたご意見を踏まえて、今後、景観計画の構成案みたいなものを色々検討していきたいと思っています。今日はこんなに長くお時間をいただく予定ではなかったのですが、ありがとうございます。私の方からは以上です。

(竹村主査) 私としては、もしかして1月にもう一回会議を開催しなければダメかなという認識でいたのですが、なかなか皆さんで集まるのも大変かと思うので、メールや文書、グループラインなど連絡方法を調整させていただきます。

(会長) 皆様お疲れ様でした。ここまでの話ができて、PCKKさんとは委員会では初めてですが、とても良い話ができたとと思います。ハードルも分かってきましたが、それは良いことだと思います。これを乗り越えると、景観計画は、多分、中札内村ならではのものになるような、あるいは、その景観計画づくりのプロセスが、中札内村ならではのものになるような気がしてきました。なので、すごく良かったと思います。皆さん、どうもありがとうございました。

【要旨】

- ・金澤和彦さん、片山祐二さん、下埜智加さん、歌野裕美さん、渡部弘正さん、林理央さん、柴田裕貴也さんの7名が、今期の景観まちづくり委員会の委員として受嘱した。
- ・委員の互選によって、会長は金澤さん、副会長は歌野さんに決定した。
- ・11月に実施したアンケート結果と来年予定しているワークショップの方針を共有した。

<アンケートについて>

- ・村民が大事にしたい景観は、アンケートで回答が集まった「ピョウタンの滝」のような名前が付けられるものだけではなく、自分の家の庭や、ちょっとした裏道などではないかという意見が挙がった。

<ワークショップについて>

- ・中札内村の景観は、農業などの村民の生業に関係が深く、そういった関係者を含めてワークショップを実施する必要性を確認した。
- ・景観が良くなることで、村に訪れる人が増えることが考えられるため、ワークショップでは、観光協会や商工会の方もいた方が良いという意見が出た。
- ・第一回の方針にある将来イメージを描くことは難しく、抽象的になるのではといった意見もあったが、村の外での居住経験がある方と、村で長く住んでいる方が意見を交換することで、将来イメージが見えてくるのではといった意見もあった。
- ・ワークショップの冒頭で、ワークショップの目的を共有する必要があるという意見があった。
- ・道の駅や文化創造センターなど、どのように景観として捉えれば良いか分からないものもあるため、ワークショップでは、参加者に景観の定義について共通認識を持ってもらう必要があるという意見が出た。

<その他について>・ワークショップのテーマや参加者について、本日の意見を踏まえて再考し、メールで協議・確認する。